

令和 6 年度 議会運営委員会・議会広報委員会行政視察報告書

◎実施日：令和 6 年 7 月 1 9 日（金）

◎参加者：円谷 憲人（議長） 松本 寛道（副議長）

議会運営委員会

阿比留 義顯（委員長） 田中 晋（副委員長）

議会広報委員会

塚本 竜太郎（委員長）

◎調査内容

実施日	視察先	視 察 項 目
7 月 1 9 日	山口県 下関市	議会だよりについて

下関市は、本州最西端部に位置し、人口約 25 万 5,000 人、面積 716.28 平方キロメートルの海峡と歴史のあるまちである。

議会に関心のない人にも手に取ってもらえる、興味を持ってもらうため、また、新規読者の開拓に向けた議会だよりについて、詳細に説明をいただいた。

平成 2 3 年度までは、市報の一部に議会だよりの枠を確保し、市報を活用する形で議会に関する報告を行っており、議会独自の「議会だより」は発刊していなかった。

平成 2 4 年度から、議会広報の充実を図るため、広報準備委員会を設置し議論を進めた。市報に毎月掲載している議会だよりは継続した上で、新たに、代表質問と一般質問に特化した原稿を議員自らが作成して掲載する独自の議会だよりが平成 2 4 年 6 月号に創刊となった。

令和 5 年度からは紙面内容について、以前までの一般質問を中心とした掲載内容のレイアウトから、令和 5 年 6 月号から新たなレイアウトに変更している。変更に至った経緯としては、令和 3 年度に議員定数削減の検討の中で実施した市民アンケートから「市議会議員が何をしているかわからない」との意見が多く寄せられ、議会広報の機能を強化する必要があるとのことから、議会に関心のない人にも手に取ってもらえる、興味を持ってもらえる議会だよりの作成に向けて、レイアウト変更の検討が進められた。

新たなレイアウトでは、表紙に一般質問での確認事項と要望などを簡潔にまとめた記事を載せ、詳細なやり取りについては録画中継に誘導するための QR コードを併せて掲載している。見開きには市の政策がどう変わり、どう進められているのかという点にスポット

を当てて、委員会での審査の中から特に市民生活に密着した内容，関心が高いと思われる内容を選定して掲載することで議員の役割が伝わるようにしている。さらに，文字情報ばかりであると新規読者には読んでもらえないということから，写真や図を活用して，忙しくても短時間で気軽に，分かりやすく読むことができるレイアウトにすることで，新規読者の開拓を進めてきたとのことである。

発行回数やページ数は創刊当初から現在に至るまで変更がなく，市報の半ページに定例会の内容や議会からのお知らせなどを毎月掲載しつつ，独自の議会だよりは3月，6月，9月，12月の年4回発行している。配布方法は，市報に挟み込む形により自治会を通じて全世帯配布を行っており，併せて公共施設や民間の医療機関やスーパーなどの店頭，駅，大学等に配架している。予算措置については，議会費から印刷製本費のほかに，各自治会長の自宅または公共施設や店頭の配架先およそ1,000箇所までの配送経費を計上している。各自治会長から各世帯までの配送については，自治会を所管している市民部において全庁的な配布物の配送予算を計上しているとのこと。また，編集業務については業者委託をしておらず，議会広報部会及び事務局職員において実施している。

今後の課題として，現在，QRコードを用いて詳細な情報をホームページ上で確認してもらう手法を取っているが，デジタルに不慣れな方々にどのように伝えていくべきかといったことや，さらなる新規読者の開拓のためのレイアウトについて検討していかななくてはならないとのことであった。

